

科 目	科 目 区 分	必修・選択 の 区 分	開講年次	開講期	単位数	時間数
情報処理技術Ⅱ(応用)	共通教育科目 —	選択	4	後期	1	30
担 当 者	オフィスアワー・場所	E-mail アドレス等				
三木 紘武	授業の後の時間 講義室または研究室					
教 育 目 的 及 び 到 達 目 標	<p>現在、Microsoft PowerPoint と Excel は実務分野でデータ整理に最もよく使われている応用ソフトウェアである。PowerPoint2007 の基本機能を自在に活用できるようになることと、表計算ソフト Microsoft Excel 2007 の機能を自在に活用できるようになることを目標とする。</p> <p>内容としては、表の作成と関数の活用、グラフの作成、データベースの活用である。具体的にはつぎの項目について学習するとともに、実機を使って演習を行う。</p>					
教 科 書	<p>① Microsoft PowerPoint 2007 基礎編 日経BPソフトプレス ¥1700</p> <p>② Microsoft Office Excel 2007 応用編 日経BPソフトプレス ¥1900</p>					
参 考 書	<p>マイクロソフト公式解説書 ひと目でわかる Microsoft Office Excel 2007 日経BPソフトプレス ¥1280</p>					
成績評価の方法	<p>出席状況・受講姿勢（10%）、レポートの提出/発表と小試験（50%）、期末試験（40%）により総合評価する。日頃の学習態度、自ら課題と取り組む姿勢を評価する。</p>					
授業評価の実施方法	<p>最後の授業時間に15分程度で実施する。</p>					
教員からの メッセージ	<p>授業中よく話を聞いて、しっかり理解するように心がけてください。また復習を行って理解を深めるように努力してください。理解できなかったことは友達に聴いたり、話し合ってください。それでも分からないことは質問してください。内容が豊富ですので毎回、きちんと理解しながら積み上げて行きましょう。</p> <p>また毎回、レポート課題を課すので、復習を行うとともに、課題を自分で毎回実施することにより理解を深めてください。そしていろいろな場面でパソコンをしっかりと使って慣れましょう。</p> <p>情報処理教室は、授業時間だけでなく、日頃オープンにしていますので、マナーを守って活用して戴きたい。</p>					

授業回数	授業計画の項目及び内容
1	<p>&lt;項目&gt;PowerPoint の基本操作, スライドの基本操作</p> <p>&lt;内容&gt;PowerPoint とはどのようなソフトウェアか、画面の構成など導入を行う。表示モードの種類と、各オブジェクトの選択方法などスライドを取り扱う上で必要となる基本的な操作方法について学び、既存のプレゼンを開く方法、画面表示モードの切り替え方法、文字列やオブジェクトの選択方法などについて演習を行う。</p>
2	<p>&lt;項目&gt;プレゼンテーションの作成</p> <p>&lt;内容&gt;新たにプレゼンテーションデータを作成する方法、保存する方法について学ぶ。</p> <p>PowerPoint の機能、作業の流れ、新たなプレゼンの作成方法、保存方法について演習を行う</p>
3	<p>&lt;項目&gt;プレゼンテーションの編集</p> <p>&lt;内容&gt;いろいろな編集機能を使って、見栄えの良いプレゼンテーションデータを作成する方法について学ぶ。</p> <p>新しいスライドの追加方法、プレゼンの見直し方法、文書書式の設定方法などについて演習を行う。</p>
4	<p>&lt;項目&gt;整列した図を描く方法</p> <p>&lt;内容&gt;作成したスライドに図表や図形を挿入することにより、説得力のあるプレゼンテーションデータを作成する方法について学ぶ。図表を簡単に作成できる SmartArt グラフィックスの作成方法、図形を簡単に作成できるオートシェイプの使用方法について演習を行う。</p>
5	<p>&lt;項目&gt;オブジェクトの挿入方法</p> <p>&lt;内容&gt;グラフ、表、イラスト、ワードアートなどのオブジェクトをスライドに挿入する方法について学ぶ。</p> <p>グラフの挿入、表の挿入、イラストの挿入、ワードアートの挿入について演習を行う。</p>
6	<p>&lt;項目&gt;スライドショーと特殊効果について</p> <p>&lt;内容&gt;スライドショーに特殊な効果を設定する方法について学ぶ。</p> <p>画面切り替え効果の設定、アニメーションの設定、スライドショーの実行について演習を行う</p>
7	<p>&lt;項目&gt;まとめと小試験</p> <p>&lt;内容&gt;ここまでまとめて演習を行い、その後<b>小試験</b>を行う。</p>
8	<p>&lt;項目&gt; 関数の応用 1</p> <p>&lt;内容&gt; 実務で使う関数と、その使い方について学ぶ。</p> <p>日付を入力関数、端数を処理する関数、条件を設定して条件により処理内容を設定する方法、データの検索方法、複数の関数を組み合わせて使用する方法などについて演習を通して理解する。</p>

授業回数	授業計画の項目及び内容
9	<p>&lt;項目&gt; 関数の応用 2</p> <p>&lt;内容&gt; IF関数、VLOOKUP 関数、ROUND 関数などが使いこなせるように演習を行う。</p>
10	<p>&lt;項目&gt; シートの分析と入力規則</p> <p>&lt;内容&gt; 条件付きの書式や Smart Art を使用して、シートの分析を行う方法と入力規則について学ぶ。 箇条書きなどの文字情報を視覚的にみばえよく表現するために、SmartArt グラフィックスという機能が用意されている。これは予め準備されているたくさんのテンプレートの中から、目的に合ったものを選択して、適用するものである。 SmartArt グラフィックスの使い方について演習を通して理解する。</p>
11	<p>&lt;項目&gt; グラフの応用</p> <p>&lt;内容&gt; グラフを編集して、より実用的なグラフを作成する方法について学ぶ。 グラフに表示するデータを追加する方法、異なる種類のグラフを組み合わせる方法、グラフ要素の書式を設定する方法、グラフに図形を追加する方法などについて演習を通して理解する。</p>
12	<p>&lt;項目&gt; データベース機能 1</p> <p>&lt;内容&gt; ワークシートをデータベースとして利用して、並べ替え、集計を行う方法について学ぶ。 データベース機能として、並べ替え・テーブルデータの書式設定・行や列の挿入と削除・合計などの処理を行う方法について演習を通して理解する。</p>
13	<p>&lt;項目&gt; データベース機能 2</p> <p>&lt;内容&gt; 必要なデータをデータベースから簡単に抽出する「オートフィルタ」機能や、高度の条件を使ってデータを抽出する「フィルタ」の詳細設定方法について演習を通して理解する。</p>
14	<p>&lt;項目&gt; まとめと小試験</p> <p>&lt;内容&gt; ここまでまとめて演習問題と行い、<b>小試験</b>をする。</p>
15	<p>&lt;項目&gt; ピボットテーブル</p> <p>&lt;内容&gt; ピボットテーブルとは「回転軸をもった表」ということができる。表を回転させることにより、いろいろな方向から集計結果を見ることができる。データ分析のツールとして利用できるものである。ピボットテーブル機能を使用して、いろいろな視点からデータを分析し演習を通して理解する。</p>
—	定期試験

科 目	科 目 区 分	必修・選択 の 区 分	開講年次	開講期	単位数	時間数
公衆衛生学Ⅱ	専門教育科目	選択	4	後期	2	30
	養護科目					
担 当 者	オフィスアワー・場所	E-mail アドレス等				
柳澤 振一郎	講義終了後					
	講義室					
教 育 目 的 及 び 到 達 目 標	<p>公衆衛生学は、「健康」を個人と集団のレベルで考える学問である。公衆衛生学Ⅱでは、最初に、集団の健康保持および増進のための施策策定の情報となる統計の意義と概念を、最近の情報を確認しながら考えていく。</p> <p>次に、環境の諸要因が健康あるいは社会生活に及ぼす影響について学び、個人・集団の健康保持のための取り決め等について学習する。</p> <p>さらに、疾病と要因の因果関係解明に用いられる疫学の方法論と、そこで用いられる健康指標について学習する。また、集団検診でのスクリーニングの考え方を学ぶとともに、検査の特性についての理解を深めていく。</p>					
教 科 書	『公衆衛生学Ⅰ、Ⅱ』西郷勝康、柳澤振一郎、川井真好、炬口真理子共著(近大姫路大学、2000年)					
参 考 書	『シンプル公衆衛生学 2010』鈴木庄亮、久道茂監修(南江堂、2010年)2400円					
成績評価の方法	定期試験 70%、平常点評価 30%					
授業評価の実施方法	最後の授業時間に 15 分程度で実施します。					
教員からの メッセージ	<p>疫学の項目では、若干数式が出てきます。丁寧に説明していく予定ですが、数学が苦手な学生には、分かりにくいかもしれません。そのような時は、すぐに質問して下さい。最近では、疫学研究の結果が、新聞に掲載されることもありますので、ここで理解しておく、生活に役立つと思います。</p>					

授業回数	授業計画の項目及び内容
1	<p>&lt;項目&gt; 社会保障制度</p> <p>&lt;内容&gt; わが国の社会保障制度の体系を学習する。</p>
2	<p>&lt;項目&gt; 医療保険制度</p> <p>&lt;内容&gt; わが国の医療保険制度について学習する。</p>
3	<p>&lt;項目&gt; 人口統計と保健統計1</p> <p>&lt;内容&gt; 人口静態統計、人口動態統計について学習する。</p>
4	<p>&lt;項目&gt; 人口統計と保健統計2</p> <p>&lt;内容&gt; 生命表、平均寿命、平均余命の考え方について学習する。</p>
5	<p>&lt;項目&gt; 人口統計と保健統計3</p> <p>&lt;内容&gt; 国民生活基礎調査、患者調査から得られるデータについて学習する。</p>
6	<p>&lt;項目&gt; 成人保健</p> <p>&lt;内容&gt; 40歳から65歳までの成人期に発生しやすい疾病統計について学習する。</p>
7	<p>&lt;項目&gt; 環境保健1</p> <p>&lt;内容&gt; 地球環境の問題とその対策について学習する。</p>
8	<p>&lt;項目&gt; 環境保健2</p> <p>&lt;内容&gt; 地域環境の問題とその対策について学習する。</p>

授業回数	授業計画の項目及び内容
9	<p>&lt;項目&gt;食品の安全と食中毒 1</p> <p>&lt;内容&gt;国民健康・栄養調査から得られたデータをもとに、日本人の栄養摂取状況を学習する。</p>
10	<p>&lt;項目&gt;食品の安全と食中毒 2</p> <p>&lt;内容&gt;食事摂取基準の考え方について学習する。</p>
11	<p>&lt;項目&gt;食品の安全と食中毒 3</p> <p>&lt;内容&gt;食中毒について</p>
12	<p>&lt;項目&gt;疫学 1</p> <p>&lt;内容&gt;疫学とはなにか。代表的な疫学の方法論について学ぶ。</p>
13	<p>&lt;項目&gt;疫学 2</p> <p>&lt;内容&gt;良く用いられる疫学の指標について学習する。</p>
14	<p>&lt;項目&gt;疫学 3</p> <p>&lt;内容&gt;スクリーニングについて学習する。</p>
15	<p>&lt;項目&gt;全体のまとめ</p> <p>&lt;内容&gt;講義した内容の重要点につき再度確認のための時間とする。</p>
—	定期試験

科 目	科 目 区 分	必修・選択 の 区 分	開講年次	開講期	単位数	時間数
生命倫理	共通教育科目 ----- —	選択	4	後期	2	30
担 当 者	オフィスアワー・場所	E-mail アドレス等				
岸見 一郎	講義時間の前 ----- 講師控室					
教 育 目 的 お よ び 到 達 目 標	<p>現代医学及びヘルスケアの還元主義とは異なり、人間を不可分な全体として見る、ホリスティック医療の先駆けであるアルフレッド・アドラー(1870～1937)の精神医学、心理学を基礎に、インフォームド・コンセント、パターンリズム、医療における QOL の問題などを事例検討によって考察する。</p> <p>とりわけ、本講義においては、教職を目指す学生が生命の重要性について正しい認識を持ち、若い、病気、死を含んだ生(life、生命、生活、人生)の意味について考えられるようになることを目標にする。</p>					
教 科 書	『アドラーに学ぶ—生きる勇気とは何か』 岸見一郎 著 (アルテ) <1,800 円+税>					
参 考 書	必要があれば、講義中に紹介する。					
成績評価の方法	定期試験(筆記試験。理解度、論理性、独創性の観点から評価する)。					
授業評価の実施方法	最後の授業時間に 15 分程度で実施します。					
教員からの メッセージ	<p>学生が知りたいと話をするのが、講義の基本だと考えている。そのために講義においては、学生からの質問に答えることに時間を割きたい。</p> <p>世の中には答えがすぐに出ない、あるいは、そもそも答えが出ない問いがある。そのような問いについてどのように考えていけばいいのか。本講義が哲学入門になれば、と考えている。</p>					

授業回数	授業計画の項目および内容
1	<p>&lt;項目&gt; はじめに</p> <p>&lt;内容&gt; 講義全体の導入。</p> <p>講義では、病気や死に関連する問題だけではなく、生きること全般についても考察していく。その必要性について説明するとともに、本講義が全体として何を指すかを示す。</p>
2	<p>&lt;項目&gt; 失われた勇気1</p> <p>&lt;内容&gt; 直面する人生の課題を解決できないと思い込んだ時、人はどうなるかを見ていく。</p> <p>積極的なタイプの人は問題行動を起こし、消極的なタイプの人は神経症的症状を呈する。それらの行動、症状の目的について知ることで、対処の仕方が異なることを学ぶ。</p>
3	<p>&lt;項目&gt; 失われた勇気2</p> <p>&lt;内容&gt; 賞罰教育がもたらすパターンリズムの問題について考察する。</p> <p>賞罰の弊害について考察する。なぜ教師が権威的になるのか、また子どもが依存的になるかを明らかにする。</p>
4	<p>&lt;項目&gt; 勇気の回復1</p> <p>&lt;内容&gt; 失われた勇気を回復するためにどんな援助ができるかを考察する。</p> <p>「勇気づけ」(encouragement)と呼ばれる賞罰ではない関わり方について学ぶ。この時間には対人関係全般を視野に入れ、具体的に他者にどう関わるかを見ていく。</p>
5	<p>&lt;項目&gt; 勇気の回復2</p> <p>&lt;内容&gt; 前回講義の続き。</p> <p>前回の講義をふまえ、教育の場面で、生きる勇気までくじかれた子どもたちをどのように援助するかを考える。</p>
6	<p>&lt;項目&gt; 勇気の回復3</p> <p>&lt;内容&gt; もの・ヒト・人・人間の違いについて考察する。</p> <p>生命倫理学ではパーソン論といわれる領域である。妊娠中絶や脳死が問題にされる時、この違いが問題になってくる。それらの概念について学ぶ。</p>
7	<p>&lt;項目&gt; 勇気の回復4</p> <p>&lt;内容&gt; 前回講義の続きとこれまでの講義の振り返り。</p> <p>実は、その区別は、医療の場面だけでないことを学ぶ。本講義までが、仏教の言葉でいえば、生老病死の「生」に当たる。これまでの講義を振り返り、次回以降の講義を展望する。</p>
8	<p>&lt;項目&gt; 病気1</p> <p>&lt;内容&gt; 人は病気になったとき、それをどう受容し、回復していくか。</p> <p>この受容の仕方が、実は、人が病気になる以前の生き方(ライフスタイル)に関係があることを学ぶ。病気になったときだけ、人は特別な存在になるわけではない。</p>

授業回数	授業計画の項目および内容
9	<p>&lt;項目&gt; 病気2</p> <p>&lt;内容&gt; 前回講義の続き。          病気になることはどういうことなのか。その時いったい、人の心の中で何が起るかということを前回の講義をふまえ考察する。</p>
10	<p>&lt;項目&gt; 病気3</p> <p>&lt;内容&gt; 病気になることの意味について考察する。          ここでいう意味は、人生の中で病気に罹患したことを意味づけるかということである。病気になった後に人の人生がどう変わるかを学ぶ。</p>
11	<p>&lt;項目&gt; 死1</p> <p>&lt;内容&gt; 誰もが避けることができない死について考察する。          多くの人は死について考えたこともないのではないか。ところが病気になった時、死が多かれ少なかれ現実的になる。不可避の死とは何か、考察する。</p>
12	<p>&lt;項目&gt; 死2</p> <p>&lt;内容&gt; 死の受容。人は死の恐れをいかに克服するかを考察する。          前回の講義をふまえ、さらに死とは何か考察する。早い時期から死の問題に関心を持つ子どもたちがいる。子どもたちの問いに真摯に答えるために自分でも死について考えておきたい。</p>
13	<p>&lt;項目&gt; 生きる勇気 1</p> <p>&lt;内容&gt; 人はどんな時でも自由で、生きる喜びを感じることができる。          このことをわれわれは臨床の場面で患者から、教育の場面では子どもたちから学ぶだろう。われわれもまた生きる喜びを伝え、可能な限り勇気を与えたい。そのためにはどうすればいいかを学ぶ。</p>
14	<p>&lt;項目&gt; 生きる勇気 2</p> <p>&lt;内容&gt; 前回講義の続き。          教師自身の生きる姿勢が子どもたちを勇気づけることができる。悲観主義、楽天主義、楽観主義の違いについて学ぶ。</p>
15	<p>&lt;項目&gt; まとめ</p> <p>&lt;内容&gt; 講義の振り返りと今後の展望。          答えの出ない問題がどれほど多いかをこの時点で学んでいるだろう。それでも判断停止は許されず、絶えず、決断を迫られる場面は多い。本講義で学んだことを今後どう生かしていくか学ぶ。</p>
—	<p>定期試験</p>